

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871200416		
法人名	有限会社 梨花園		
事業所名	グループホーム 梨花園		
所在地	常陸太田市上土木内町382 (電話) 0294-74-4578		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年4月21日

## 【情報提供票より】(平成20年12月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.0 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1500 円		

## (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	久慈茅根病院 東原クリニック 永井歯科クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの家が立ち並んだ一角に位置し、田畑が広がる自然豊かな環境にある。玄関には行事等の思い出の写真が掲示してあり、利用者はとても楽しそうである。ホーム内は清潔に保たれており、季節の花が飾られていたり居心地良く過ごせるように環境が整えられている。利用者同士で協力し合ったりする場面や職員と利用者が楽しそうに話をしている場面があったり、自分の時間を過ごす利用者がいたり等、一人ひとりが思い思いに過ごしていることが窺えた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価に関しては、改善にむけての話し合いが行われている。終末期に関する課題について、全職員で話し合いは行われているが書式が整備されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員会議などで職員から意見をもらって管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催しており、民生委員や町内会長、利用者の家族等が集まり、外部評価の報告や行事報告、事故報告等を行い意見をj得ている。地域からの情報も得るようにしており、会議で出た意見等をサービス向上に向けて取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、家族の面会時や、電話連絡時に意見等を積極的に聞くようにしたり、運営推進会議で意見等をもらうようにしている。意見等を活かせるように、全職員で話し合いを行い運営に反映できるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に挨拶を交わしたり、野菜を頂いたり、ボランティアで大正琴を披露してくれたり等地域との関わりあいがある。ホームは、地域との連携が図れるように働きかけを行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を復唱したり、名札の裏に入れて見直せるようにしており、理念を念頭に置いて日々取り組むようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流が図れるように、積極的な働きかけを行っている。近所の方が立ち寄り、ボランティアが来所したり、又地域で行われる敬老会に参加する等している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、サービス評価の意義や目的を理解している。自己評価は、職員会議などで職員から意見をもらって管理者が作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、民生委員や町内会長、利用者の家族等が集まり、外部評価の報告や行事報告、事故報告等を行い意見をj得ている。	○	運営推進会議の場が、事業所のアピールの場として有効活用でき、地域との関係性がより深まることを期待したい。

茨城県 グループホーム梨花園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、相談しやすい関係が出来ており、アドバイスをもらったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に変化があった時には、その都度電話連絡するようにしている。定期的に園便りを送っており、利用者の暮らしぶりがわかるよう写真を添付するなど工夫している。金銭面の報告も、定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話連絡時に、ホーム側から積極的に意見等を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を配慮するために、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。研修後は、職員会議で研修内容を報告し、全職員が情報を共有できるようにしている。内部研修では、身体拘束や虐待などをテーマにあげ研修が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、同業者と意見交換しながら、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいたり、希望があれば体験入居も可能である。家庭的な雰囲気を常に意識し、安心して生活できる様に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や慣わし事など、利用者から教わる場面が多い。また、そういった場面が多くもてるように、言葉かけにも工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、利用者から思いや意向を聞き取りしたり、日々の関わりの中で確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、利用者や家族・職員で話し合いを行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しが行われており、利用者の状態が変化した際は、カンファレンスを開催し、新たな介護計画作成への話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて、行政への書類の代行を行ったり、病院に入院時の洗濯や病院受診の送迎なども行っている。また、地域住民に向けてデイサービス事業を始めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、納得が得られた病院への支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人や家族、医師等との話し合いを行い同意書を取り交わしている。終末期に関する話し合いは行われているが、準備段階である。	○	終末期に関して、事業所として出来ること、出来ないことを明確にし、運営者や管理者、職員間で話し合いをしながらガイドラインを作成して頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応に関して、内部研修を行っており職員の意識向上を図っている。記録等の個人情報の取り扱いには徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時には、これまでの生活スタイルを聴き取りするようしており、一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。職員は利用者の嗜好調査を行い把握している。楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、利用者の希望や体調に合わせた支援を行なっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみ等、一人ひとりの力が発揮できるよう場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの外出や誕生月には外食に出かけている。日常的には、散歩に出かけたり買物に出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかかっていることが確認できた。全スタッフは鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を利用者と一緒に行っている。町内会長の協力を得ながら、地域との連携が図れるよう働きかけを行っている。		

茨城県 グループホーム梨花園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を参考にする事で、栄養バランスに配慮している。毎月の体重測定や日々、食事量や水分量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれており、居間には季節感を感じるような掲示物が飾られている。浴室やトイレには温度差がないように暖房器具を使用し配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真が飾られていたり、利用者の好みや馴染みの物が置かれており、居心地良く過ごせるような空間となっている。		